

6 - 5 1983年10月31日の鳥取県中部の地震と西日本の地震活動の移動

The 1983 Tottori Earthquake and the Migration Pattern in the Western Japan

東京大学地震研究所

茂木 清夫

Kiyoo Mogi

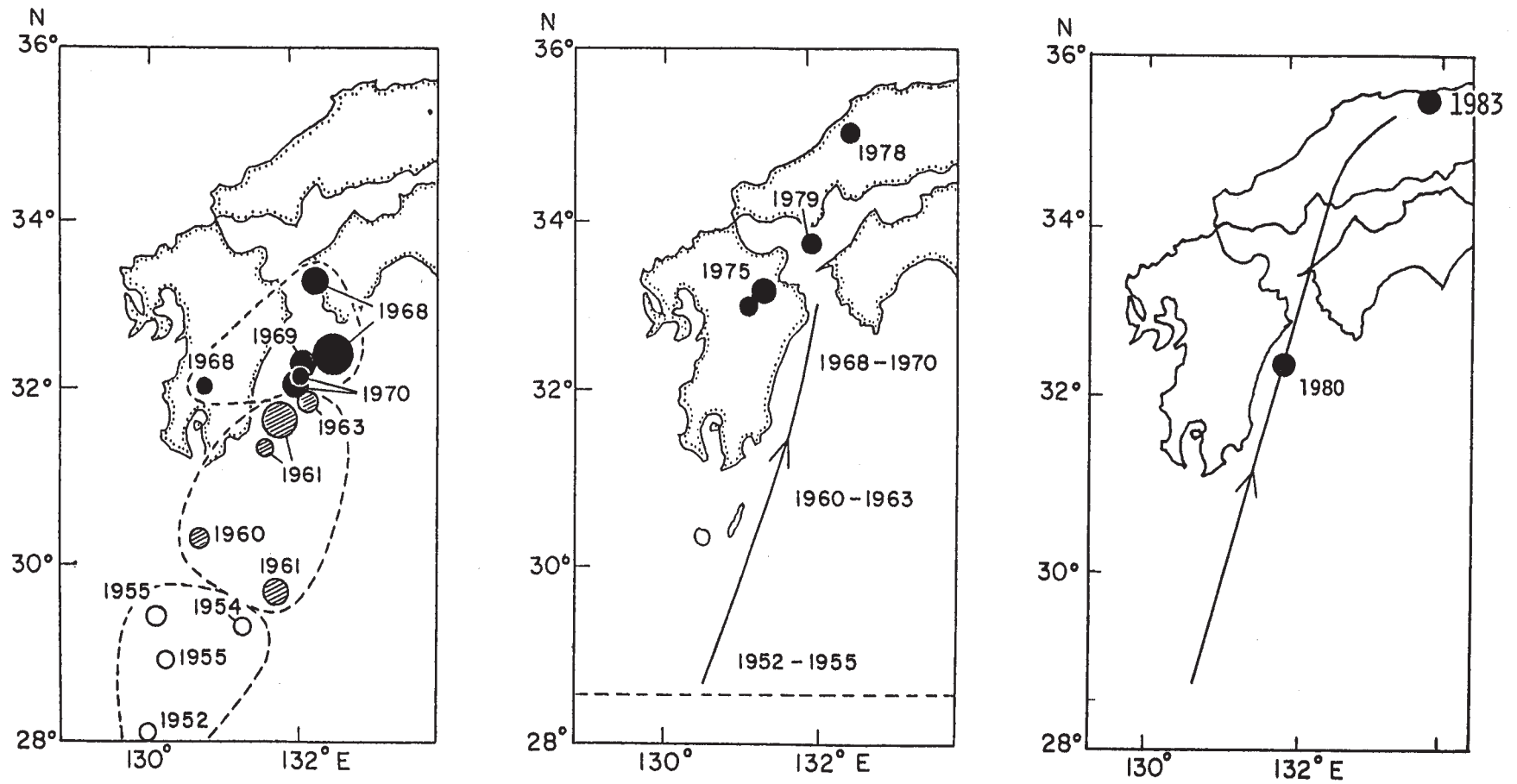
Earthquake Research Institute, University of Tokyo

1983年10月31日、鳥取県中部でM6.3の浅い地震が発生した。鳥取では1943年に鳥取地震(M7.4)が起って、翌年、東南海地震(1944)が起ったという例があるので、今回の地震が周辺の活動とどういう関係にあるのかを検討した。

西日本の地震活動は東南海・南海道(1944年と1946年)の兩大地震の前後で様相を一変した。南海道地震の震源域の西又は北側を走る地震帯の活動は大地震の前に全体としてかなり高まっていた。1943年の鳥取地震の発生はその一つである。しかし、大地震後この地震帯の活動は一せいに低下し、1950年代以降薩南諸島から日向灘、中国地方西部へと地震活動が系統的に移動する傾向が認められた(第1図)(茂木, 1980)。今回の鳥取地震はその北東方向への移動の延長上に起ったと見ることはできるのではなかろうか。なお、日向灘でも地震が起り始めているので、今回の地震は地震活動前線の移動線上に起こったと言った方がよいかも知れない。このように見れば、今回の地震と1943年の地震とでは周辺活動との関係がちがうことがわかる。

参 考 文 献

- 1) 茂木清夫: 連絡会報, 23(1980), 149-150.



第1図 1950年以降の西日本の地震活動の移動の傾向と今回の鳥取県中部の地震

Fig. 1 Migration of seismic activity in the western Japan since 1950 (after the great Nankaido earthquake).
The 1983 Tottori earthquake of M6.3 occurred along this migration path.